

「聞書 国司広孝」

（毛利家文庫 16 叢書 36）



釈文編

国司（くにし）氏は、足利尊氏の執事として知られる高氏の一族。とくに高師直は尊氏の右腕として活躍、南朝方の北畠顕家や楠木正行らを打ち破ってその勇猛をうたわれた武将であった。

やがて師直と足利直義の反目が嵩じて「観応の擾乱」が勃発、敗れた師直・師泰兄弟らが討滅されると、高一族は衰退の一途をたどった。師泰の子師武は害を逃れて安芸国高田郡国司庄に下向し、のちに在名をとって国司氏を称した。

そのころ、隣郷の郡山城には毛利氏が拠っていた。国司庄に土着した国司氏は毛利氏に従属するようになり、譜代の家臣となった。

関ヶ原の合戦後、毛利氏は周防・長門の二国に減封され、広島から萩へと移った。国司氏も毛利氏に従って萩に移り、以後宗家は長州藩寄組に列して近世を生き抜いた。

幕末の当主に萩藩家老の国司信濃親相がいる。親相は文久3年（1863）、赤間関の攘夷戦で諸隊を督戦し、さらに「禁門の変」でも一軍の将として出陣した。しかし、敗れて帰国後におきた第一次幕長戦争で、責任をとって益田右衛門佐・福原越後の二家老とともに自刃した。

近世の国司氏

就正	就長	広直	広昌	広孝	正久	就直	就相	就孝	元善	迪徳	親相
右京亮 備後	右京亮	与三兵衛	隼人 式部 舍人	頼母 隼人	内蔵 長純	舍人	隼人 備後 与三兵衛	市正 信濃	将監		信濃
八組頭 江戸御留守居 当職 国元加判役		御手廻頭 大頭役 江戸加判役 老中 江戸御留守居 当役	御手廻頭 老中 当役	八組頭 御手廻頭	八組頭	八組頭	八組頭 御手廻頭 若年寄 老中 当役 江戸加判役 重就公御付	御手廻頭 若年寄 老中 江戸御留守居 国元加判役 当役	八組頭 御手廻頭		加判役

○ 史料 A は、テキストの著者の年譜について記したものです。次の表の空欄を埋め、問に答えてください。

(毛利家文庫 譜録く 33 国司内蔵長純による)

和暦	西暦	年齢	ことがら
元禄 8	1695	1 歳	誕生
元禄 14	1701	7 歳	(a)吉広公より (祿) を (拝領)、(b)袴着を仰せ付けらる。 (伝記) は先年差出。
宝永元	1704	10 歳	吉広公より一字「広」の判物 (被下置之)。写先年差出。
宝永 6	1709	15 歳	父広昌 (果候)、(跡識) 相違なく広孝え (相続) 仰せ付けらる。連署の奉書あり。写先年差出。
正徳 4	1714	20 歳	6 月 12 日、(大組頭役)。御 (直) に仰渡さる。
正徳 5	1715	21 歳	八組頭役の時吉元公より書を下さる。写此度差出。
正徳 6	1716	22 歳	(c)徳山還付により、(屋敷為請取)、広孝差し越さる。連署の奉書あり。写先年差出。
享保 2	1717	23 歳	(御手廻頭役) となる。御 (直) に仰渡さる。
享保 2	1717	23 歳	(御手廻頭役) の時吉元公より書を下さる。写此度差出。
享保 6	1721	27 歳	(d)御謡初の時、(着座) 仰せ付けらる旨の奉書あり。写先年差出。
享保 9	1724	30 歳	娘の (縁組) 願いの如く仰せ出され奉書あり。写此度差出。
享保 10	1725	31 歳	春、江戸御供つかまつり候ところ、(病身) にて御役 (御理) 申し上げ候ところ、江戸において願いの如く御役差免ぜられる。 (並方) は御手廻頭役の格にて差し置かる。
享保 11	1726	32 歳	死去

問1 下線部(a)は誰のことですか。

萩藩第 4 代藩主毛利吉広

問2 下線部(b)を簡単に説明してください。

幼児から少年少女に成長することを祝って、初めて袴をつける儀式。11 月 15 日に、七・五・三の祝いとして祝った

問3 下線部(c)を簡単に説明してください。

徳山藩第 3 代藩主、毛利元次の代の享保元 (1716 年) 年に宗家と対立し、幕府より本藩への非礼として改易された (万役山事件) こと

問4 下線部(d)を簡単に説明してください。

新年に、武家の殿中で能役者を招いて謡曲のうたいはじめをする儀式

1 史料①は、長門の角島と本土の間が航海の難所であることを述べたものです。空欄を埋め、問に答えてください。

(a)天下御代官より(北国)御米船積

廻し候(船頭)えの御書出しに、長門国

(b)尼が瀬(不可乗事)といふケ条これあり。

さ候へば(殊之外)(難所)ト見ゆ。是(肥中)と

(津の嶋)との(間)の(迫門)也。これにより北国

船は(鳶)の沖を乗。尼が瀬は北国

船(通路)の(近道)(故)船頭乗候事

これあるべきとの儀にて、(右)の仰せ出されなり。

問1 下線部(a)は何のことですか。

幕府・将軍

問2 下線部(b)は今どのように表記しますか。

海士が瀬戸

問3 ここに記されている北国船は、一般に何と呼ばれますか。

北前船

2 史料②は、大島郡と大畠の間の海峡について述べたものです。復習の意味で空欄を埋めてください。

大島郡と陸地との(間)を大畠の(迫門)と

いふ。(殊之外)の(難所)の(迫門)、(近来)は

(少々)劣候とは申し候なり。昔は(汐時)には

(響にて)一里(計)(脇)の(在所)の(鐘子)の

(蓋)動き候よし。

3 史料③～⑥は、いずれも豊臣秀頼を題材とした笑い話(嘲笑)です。どうおかしいのか考えながら読みましょう。

③ 秀頼コクワを以て(橋)の(繕)せよと

申され候へば、(諸人)(尤)と申し触れ候。(能事)と

(心得)られ、その後大坂陣天王寺

口の破れをコクワを以て(つくろへ)と下知つかまつられ候よし。

④ 秀頼大坂(前年)の陣へ

向かい(寒中苦勞)と御意候へと

(真田左衛門)申たりしかば、おしへの(通)

御意候。諸軍競い候て、(有難)よし申し触候。

翌年(夏)の戦の時、諸軍勢に

向かい、又（ 寒中苦勞 ）と御意候。諸軍
（ 嘲 ）候。

- ⑤ 秀頼（ さざへ ）好物にてこれあり、（ さざへのなる木 ）は（ 所望 ）など申され候よし。
- ⑥ 秀頼、家康公え初めて（ 対面 ）の時、
汁三度に食入られ、家康公御（ 噂 ）に
（ 加減 ）を（ しらず ）、秀頼天下（ 取 ）（ 器量 ）
ならずと御意候よし。

4 史料⑦は、山口の一ノ坂銀山の盛衰について述べたものです。空欄を埋め、問に答えてください。

防州一ノ坂銀山の（ 次第 ）、（ 天野又右衛門 ）と
申す者に山（ 奉行 ）仰せ付けられ候。（ 至尔今 ）
天又銀と申し候は、（ 此人 ）の(a)こくいの
銀子なり。山をうけ候町人（ 施行 ）引
たる処、(b)当時大石に(c)逆修金の入（ 銘 ）
（ 残 ）れり。（ 然共 ）（ 此者 ）は後たおれ候て、
非人に成たると申（ 伝 ）候。（ 扱 ）一ノ坂の
銀は（ 肥後 ）阿蘇嶽より一ノ坂の
（ 金柱之氣 ）五本（ 往古 ）は見え候よし、
当時は（ 巧者 ）の者は三本（ 迄 ）は見え候。
式本（ 程 ）は先年（ 掘 ）申し（ たるにて ）うせ
（ 候半 ）と申し候。（ 扱 ）銀山の処の一本松
（ 枝 ）おろさんと（ すれ ）ば、山中（ 騒動 ）仕り候よし。
（ 其 ）下に銀（ 多 ）きと申（ 伝 ）候。山（ 断絶 ）
（ 已後 ）百余年に成、萩の御城下
（ 普請 ）（ 此 ）山の御運上にて出来と
申し候。毎日（ 銀千枚 ）の御運上、三四
十年（ 茂 ）積候よし。（ 尔今 ）彼（ 所 ）に（ 遊女 ）町、
（ 魚屋 ）町、八百屋町の（ 跡 ）壇に（ 残 ）り、
その名を申し伝え候。俗にげざい場と
申し候も、此（ かね山 ）の（ 間夫 ）の（ 居所 ）を
さしていふよし。

- 問1 下線部(a)は何のことですか。 極印
 問2 下線部(b)はどういう意味ですか。 現在
 問3 下線部(c)はどういったことですか。 生前に死後の冥福を祈って仏事を行なうこと

5 史料⑧は、戦国時代に朝廷が衰えた様子を述べたものです。空欄を埋め、問に答え
 てください。

(a)天文の乱の時、(内裏) (衰微)、(公家) は
 大内殿其外へ (分散) し、禁裏の
 築地 (崩れ)、(b)よし垣にてこれあり。(在家) より
 禁裏の火見えけり。六丁町より
 禁裏の (番) をす。これにより六丁は (至今) (諸役)
 御免なり。(c)松永乱の時、(殊之外) (零落) し、
 町の (酒屋) より(d)どぶを (献すれば)
 官女は (直) にとり、(うりの柄) 買って
 (e)供御とす。その (砌) は (綸旨取) とて
 (綸旨) を (売ありく) 事 (ありけり)

- 問1 下線部(a)はいつごろのどういう出来事ですか。
 天文5年(1536)比叡山延暦寺の衆徒が宗教問答を契機に
 京都の法華一揆と対立し、洛中洛外の日蓮宗21寺を襲った
 事件。天文法乱
- 問2 下線部(b)はどういうものですか。
 杉丸太を立て、胴縁の上に葦簀を張り、縄で結び固めた垣
- 問3 下線部(c)は誰のことですか。 松永久秀
 問4 下線部(d)はどういうものですか。 どぶろく。酒
 問5 下線部(e)はどういうものですか。 天皇の食事

6 史料⑨は、年末の様子を詠んだ2首の狂歌です。かけことばに注意して味わってみましょう。

1 首目のヒント：「四手の山」は「死出の山」です。辞書を引いてみましょう。

2 首目のヒント：「かけこい」「豆板」を辞書で引いてみましょう。

- ・「 四手の山 又帰るべき道しあらば 暫し死（に）たき 年の暮哉 」
- ・「 節分の 鬼よりこは（怖）き かけこいを 打出すべき 豆板もなし 」

7 史料⑩は古来の日本の様子について、筆者の歴史観を表明した記述です。空欄を埋め、問に答えてください。

日本にても（ 神武 ）（ 已来 ）五、六代に
及ぶ（ 迄 ）は（ 誠 ）に(a)湯武の功なり。(b)武内
舎人（ 等 ）の（ 如き ）は（ 誠 ）に豪傑なり。
日本にて（ 延喜 ）天曆を聖代と申し候は
（ 誤 ）にして、（ 延喜 ）天曆（ 等 ）唐の
風を学ぶ。（ 礼楽 ）全く行われて
唐に（ かわらぬ ）と（ みゆ ）。その後（ 和歌 ）の
道（ 長ずるに ）及び、文学（ 捨れ ）女の
如き風になり行き、これにより武将
（ たる ）もの（ 権 ）を（ 取 ）、（ 恣 ）になり（ ければ ）、
王道おとろえ、乱世（ ）しければ、
（ 足利 ）の（ 中比 ）は（ 誠 ）の（ 夷風 ）とはなれり。
(c)大権現の（ 草創 ）以来（ 少 ）は（ 風儀 ）
（ 直るか ）

問1 下線部(a)はどういう意味ですか。

古代中国の殷の湯王と周の武王。古代の聖王とその治世をいう

問2 下線部(b)は誰のことですか。

武内宿禰

問3 下線部(c)は誰のことですか。

徳川家康

8 史料⑪は近松門左衛門の人形浄瑠璃、「国性爺合戦」の主人公、鄭成功とその父鄭芝龍についての記述です。空欄を埋め、問に答えてください。

（ 明 ）の末に鄭芝龍と云者あり、
（ 乱 ）をさけて日本に來り、（ 肥前 ）国
平戸の城主松浦（ 肥前守 ）（ 鎮信 ）に
（ 奉公 ）す。（ 鎮信 ）の（ 氣 ）に入、鄭（ 一兵衛? ）と

申候て、後は（ 取立 ）に（ 逢 ）候て、江戸の
（ 供 ）など仕り、（ 物頭役 ）相勤め候。妻をも
持ち候て、子を持ち候。唐に乱（ をこり ）
明滅候（ 段 ）（ 聞伝 ）、故（ 国 ）の（ 讐 ）を
報し度（ 念願 ）にて、（ 松浦殿 ）へ（ 暇 ）
の儀願ひ候。（ 鎮信 ）（ 承 ）り申され、（ 尤 ）の
願とてからへ（ 返 ）し申され候。日本にて
（ 出生 ）の子を唐へ（ 連れ返り ）度よし
願候。是も願に（ 任せられ ）候。（ 扱 ）（ 武具 ）
鉄砲三十挺を御付け下され候へと願候（ へ共 ）、
天下（ 御法度 ）故、（ 鎮信 ）是を（ 制 ）せ
らる。（ 頻 ）に願候にて、密に鉄砲一挺（ 宛 ）
父子（ 取 ）帰候。（ 扱 ）からへ（ 罷歸 ）候ては
父子大乱を（ 発 ）し候。鄭芝龍
日本にて（ 出生 ）の子からへ帰り候て
鄭（ 新爺 ）と云。からへは十五の年に
参候事。

問1 下線部「度」はどういう意味ですか。

「～したい」の意

8 史料⑫は筑前福岡藩で起きたお家騒動、いわゆる黒田騒動についての記述です。空欄を埋め、問に答えてください。

(a)黒田筑前守（ 家老 ）(b)栗山大膳と
申す者、威勢（ 強 ）く相成り、知行は（ 壹万 ）
石にて候。（ 後には ）(c)逆心の（ もやうに ）
（ 罷 ）成り、これにより(d)大猷院様御代、（ 於御城 ）
御（ 直 ）に（ 被成御尋 ）候。御大名方御（ 列座 ）
(e)大照院様にも御出なされ候。（ 扱 ）大膳
申方を（ 聞召 ）候（ 処 ）に、大膳（ 逐一 ）
（ 尤 ）にて、（ 既 ）に黒田殿（ 悪きに ）相成り候
（ 処 ）を、大照院様御（ 老中 ）へ仰せられ候は、
主（ 扶持人 ）の(f)出入にて、家来の
申し分（ 尤 ）と候て主の(g)迷惑に
仰せ付けらる様に候へば、（ 君臣 ）は（ 不相立 ）候。
此（ 長門守 ）などは（ 不断 ）家来との

(あわひ) には(h)無理もこれあり候、御 (吟味)
あるべきの儀と仰せ上げられ候。これにより (尤) の
儀と御 (評定) 候て、(即時) 大膳儀
(i)切腹仰せ付けられ候なり。

- 問1 いわゆる黒田騒動は、西暦何年に起きましたか。 1632年
問2 下線部(a)について、誰のことですか。 黒田忠之
問3 下線部(b)について、この事件を題材として『栗山大膳』という小説を書いた明治の文豪は誰
ですか。 森鷗外
問4 下線部(c)について、どういう意味ですか。 主君にそむく心。むほんの心
問5 下線部(d)について、誰のことですか。 3代将軍徳川家光
問6 下線部(e)について、誰のことですか。 萩藩初代藩主毛利秀就
問7 下線部(f)について、どういう意味ですか。 けんか
問8 下線部(g)について、どういう意味ですか。 不利益
問9 下線部(h)について、どういう意味ですか。 道理の立たないこと
問10 下線部(i)について、実際には栗山大膳は切腹にはなりませんでした。どういう処分だったか
調べてみましょう。

陸奥国盛岡藩預かりとされた。実質流罪ではあったが、150人扶持であり、盛岡藩も
手厚く待遇した。盛岡城下の文化振興に寄与し、子孫及び臣下は盛岡藩に定着した

9 史料⑬は、ある人物の人となりを示す逸話です。空欄を埋め、問に答えてください。

(児玉) 豊前殿は(a)宗瑞様の御 (妾)
(b)西の丸 (お松) 殿のいとこなり。(夜ル夜)
豊前殿 (挑燈) 西の丸へ (参) 候 (迎)
宗瑞様御 (嫉妬) これあり、豊前殿
死去候と、(児淡路) 殿知行没収
させられ候。(淡州) は (益田牛庵) の
聲にて候 (ける) 故、(牛庵) へ御 (預) け、
その後御 (奉公) (被召出) 候。

- 問1 下線部(a)について、誰のことですか。 毛利輝元
問2 下線部(b)は誤記で、通常「二之丸」とよばれます。誰の娘ですか 児玉元良

10 史料⑭は、史料⑬で登場した女性の数奇な運命の逸話です。空欄を埋め、問に答
えてください。(長文ですが、最後ですのでがんばりましょう)

【I】

(児玉) 元良の娘、(幼少) の時、(門前) に
(遊) び申され候を、輝元公御 (通) り (懸) り

御（ 覧 ）なされ候。（ 誠 ）に（ 幼雅 ）に（ 候へ共 ）、（ 奇麗 ）の（ 生質 ）に候き。其後は元良（ 広嶋 ）の（ 宅 ）へ（ 度々 ）御下りなされ候。その（ 趣 ）元良（ 無心元 ）存ぜられ、娘十二歳の時防州（ 野上 ）
当時の徳山なり杉（ 小二郎 ）方へ（ 婚姻 ）（ 調 ）えられ候。輝元公この儀(a)御苦勞に相成る（ 趣 ）に見え候故、佐世石見（ いか様 ）の御（ 機嫌 ）に候（ 哉 ）（ 無御心元 ）と申され候へば、様子（ 委ク ）御（ 語 ）なされ候。これにより佐世（ 心遣 ）にて、杉小次郎は（ 其比 ）(b)隆景様筑前に御座なされ候へ、（ 野上 ）より（ 在番 ）に遣わされ候、その（ 留守 ）へ佐世殿（ 心遣 ）にて、杉山（ 土佐 ）・杉山清兵衛・今一人（ 已上 ）三人（ 遣し ）申され、小二郎妻の（ 乳母 ）の（ 久芳の局 ）に（ 心 ）を（ 合せ ）、小次郎殿（ 内室 ）へ申させられ候は、小二郎殿筑前（ 長詰 ）申され候（ 間 ）、(c)妻子御引かせ候（ 筈 ）に候よし申し候て、徳山（ 野上 ）より船に乗せまいらせ候。

- 問1 下線部(a)はどういう意味ですか。
 問2 下線部(b)は誰のことですか。
 問3 下線部(c)はどういう意味ですか。

苦しい思いをすること
 小早川隆景
 妻子を呼び寄せること

【Ⅱ】

船中にて杉山申し候は、筑前へ御越候ては（ 児玉 ）殿への（ 相对 ）も久々なされ（ 間敷 ）候（ 間 ）、（ 一先 ）芸州広嶋へ御立寄、両親御（ 相对 ）（ 可然 ）と申し候へば、はや小次郎殿内室御年十五六にても（ 有之 ）候、（ 兼而 ）御（ 気付 ）（ も ）これあり候ゆえ、広嶋へは御寄（ 有之間敷 ）候、筑前へ御出（ 候半 ）との事にてこれあり候へども、無理に（ 廿日市 ）（ 辺 ）（ 迄 ）船にて御同心申し候。船中にて杉山御料理（ 抔 ）（ 進之 ）候て、御付の杉が家来を酒に酔わせ、その上にて杉が家来をば（ 打果 ）し候。（ 左 ）候て、小二郎殿内室を

奪ひ、(久芳局) と共に杉山父子 (芸州) へ
(罷越) 候。小二郎殿内室 (早く) 御心
付候て、御出候途中にて、(a)杉山殿への
御届と候て、(守り脇差) 御取出し
(髪) を御切候。其後広嶋にて輝元公
小二郎殿内室へ相対なされ候き。
二之丸に (被為置) 候ゆえ、二ノ丸様と唱
申し候。

問1 下線部(a)はこのままでは意味が通じません。どう書き間違えたのでしょうか。

杉殿へ

【Ⅲ】

(扱) 杉小二郎筑前にて (様子)
(承) られ候て、輝元公へ御 (恨) 申し上げ候とて、船
にて (罷歸) る処を、隆景公より杉を
御 (討果) させなされ候。(太体) の御唱えは
(難風) にて (海中) へ沈み申され (たる)
との御唱えにてこれあり。(如此) の上隆景公
(思召)、御意と候ても (如此) (次第)、杉山
父子今一人の御付人 (并) 久芳局
(a)不謂次第に候とて、(殺害) 仰せ付けらるべき
に (風聞) 候。杉山父子 (承之)、大坂へ
浪人候て出奔仕り候。今一人の者 (并)
久芳局久芳五郎右衛門祖なり。久芳の局の家のよしは隆景公より
(b)生害仰せ付けられ候。(是) よりこの両人の
男女、輝元公・秀就公 (迄) も御恨
申し候き。二ノ丸様を奪ひ (奉り) 候
御 (褒美) もこれあるべき儀に、御情なき (次第)
との御恨申すのよし。

問1 下線部(a)はどういう意味でしょうか。

いわれざる。いわれのない

問2 下線部(b)はどういう意味でしょうか。

自害

【Ⅳ】

二ノ丸様輝元公
大坂御詰なされ候時、大坂へ御登りなさる

とて、大浦と申す所へ御船懸候へば、
 上方船より（ いつれ ）の船に候（ 哉 ）と御（ 尋 ）候へば、
 （ 芸州 ）の輝元（ 簾中 ）と（ 答 ）候。その此
 （ 伏見 ）に(a)清光院様も御（ 在世 ）にて（ 御座候 ）
 ゆへ、（ 簾中 ）と唱えたる処、（ 如何敷 ）儀（ 迎 ）
 ニノ丸様は大坂へ御上りこれなく、（ 中途 ）より
 芸州（ 御下りなされ ）候。其後ニノ丸様の
 御（ 腹 ）に(b)秀就公御（ 出生 ）なされ候。杉山
 家は此時に（ 帰参 ）仰せ付けられ候て、秀就公
 御出生の御（ 悦使 ）に（ 伏見 ）へ（ 差 ）登られ
 候よし。此（ 趣 ）は杉山家に覚書（ 委 ）く
 これあるよし。(c)世上に申し候は、清光院様御
 嫉妬これあり、ニノ丸様は（ 下ノ関 ）より
 （ 長門 ）の（ 綾木 ）へ（ 差越 ）置かれ、（ 綾木 ）にて
 秀就公御出生なされ候。其後佐世
 石見（ 取持 ）にて清光院様御（ 納得 ）
 の上、ニノ丸様は芸州御越のよし。これにより
 (d)ニノ丸様の御母公を（ 綾木 ）の(e)大方と
 申し候よし（ 申伝 ）候。

- | | | |
|----|---------------------------------------|------------|
| 問1 | 下線部(a)はどういう立場の人だと思えますか。 | 毛利輝元の正妻 |
| 問2 | 下線部(b)は誰のことですか。 | 萩藩初代藩主毛利秀就 |
| 問3 | 下線部(c)はどういう意味でしょうか。 | 世間 |
| 問4 | 下線部(d)はこのままでは意味が通じません。どう書き間違えたのでしょうか。 | 秀就様の御母公 |
| 問5 | 下線部(e)はタイホウと読みます。どういう意味でしょうか。 | 貴人の母の敬称 |